



No. sma0048

(2020.9.17)

サントリー美術館
リニューアル・オープン記念展 III
「美を結ぶ。美をひらく。」
美の交流が生んだ6つの物語」開催

会期：2020年12月16日（水）～2021年2月28日（日）



（左）色絵花鳥文六角壺 一合 江戸時代 17世紀



（右）藍色ちろり 一合 江戸時代 18世紀 いずれもサントリー美術館

サントリー美術館（東京・六本木／館長：鳥井信吾）は、2020年12月16日（水）から2021年2月28日（日）まで、リニューアル・オープン記念展 III 「美を結ぶ。美をひらく。美の交流が生んだ6つの物語」を開催いたします。

サントリー美術館は、2007年3月、六本木の東京ミッドタウンに移転開館して以来「美を結ぶ。美をひらく。」をミュージアムメッセージに掲げ活動してきました。例えば、古いものと新しいものが時代の枠組みを越えて結びつく。東洋と西洋、国や民族といった文化の境界にとらわれず結びつき、新しい美が生まれる。このように異なるものが結び、ひらくことは美術の本質であり、絶えることのない交流の中で今なお魅力的な作品が生み出されています。

本展覧会は日本美術を軸に、江戸時代から1900年パリ万博の約300年間にちりばめられた「美を結ぶ物語」「美をひらく物語」を、サントリー美術館の珠玉の

コレクションから選り取ってみました。欧州も魅了された古伊万里、将軍家献上の使命で研ぎ澄まされた鍋島、東アジア文化が溶け込んだ琉球の紅型^{びんがた}、西洋への憧れが生んだ和ガラス、東西文化が結びついた江戸・明治の浮世絵、そして異文化を独自の表現に昇華したガレ。国・時代・素材を越えて結び、ひらいた6つの美の物語をお楽しみください。

《展覧会構成》

Story 1： 欧州も魅了された古伊万里



色絵花卉文輪花鉢 一口 江戸時代 17世紀



色絵花卉文大皿 一枚 江戸時代 17世紀

古伊万里が本格的に輸出されるようになったのは17世紀後半以降、長崎からと考えられています。

そのきっかけは17世紀の初めに遡ります。ポルトガルやオランダの船が運んだ中国磁器は、ヨーロッパ諸国の王や貴族を魅了しました。ところが17世紀半ば、中国の政情不安定から、一時的に中国磁器の輸出が激減します。そこで代わりに古伊万里が本格的に海外へ輸出されるようになりました。

ヨーロッパから東洋へ向けられた熱い視線が原動力となって、次々にひらいた輸出古伊万里の美。華やかな「柿右衛門様式」や「金襴手様式」を中心に、新収蔵品も交えてご紹介します。

【主な出品作品】 以下、すべてサントリー美術館蔵

- | | | | |
|---------------------------------|----|------|-----------------------|
| ・色絵花鳥文六角壺 | 一合 | 江戸時代 | 17世紀 |
| ・色絵 ^{かきもんりんかほち} 花卉文輪花鉢 | 一口 | 江戸時代 | 17世紀 |
| ・色絵花卉文大皿 | 一枚 | 江戸時代 | 17世紀（新収蔵品） |
| ・重要文化財 色絵花鳥文八角大壺 | 一合 | 江戸時代 | 17～18世紀 |
| ・色絵松帆掛舟文皿 | 一枚 | 江戸時代 | 元禄6年（1693）銘
（新収蔵品） |

Story 2 : 将軍家献上の使命で研ぎ澄まされた鍋島



重要文化財 染付松樹文三脚大皿 一枚
江戸時代 17～18世紀



染付雲雷文大皿 一枚
江戸時代 17～18世紀

鍋島とは、江戸時代に佐賀藩（鍋島藩）の運営する鍋島藩窯で作られた高級磁器です。その用途は、徳川将軍家への年ごとの献上品、また藩のさまざまな贈進の品、藩主の身の回りの品などでした。

献上・贈進のため継続的にまとまった個数を作りつつ、常に高い品質を維持しなければならないという使命が、鍋島を研ぎ澄まされた美しさを持つやきものへ成長させたとも言えるでしょう。その最大の魅力の一つが、種類豊富な「意匠」です。ここでは構図・色彩に優れた作品を選びすぐって展示すると同時に、うつわの品格をぐっと高める「白抜き文様」の繊細な美にも注目します。

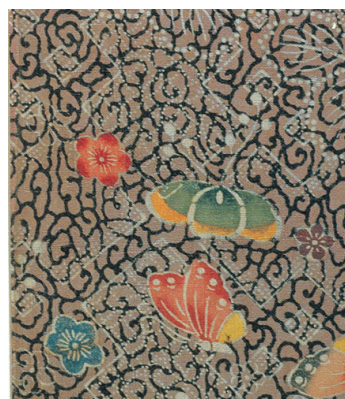
【主な出品作品】

- | | | | |
|------------------|----|------|---------|
| ・色絵組紐文皿 | 一枚 | 江戸時代 | 17～18世紀 |
| ・色絵龍田川文皿 | 一枚 | 江戸時代 | 17～18世紀 |
| ・重要文化財 染付松樹文三脚大皿 | 一枚 | 江戸時代 | 17～18世紀 |
| ・染付雲雷文大皿 | 一枚 | 江戸時代 | 17～18世紀 |

Story 3 : 東アジア文化が溶け込んだ琉球の紅型



染分地桜波連山模様裂地
一枚 琉球王国 第二尚氏時代 19世紀



葡萄色地瑞雲に蝶桐散し模様裂地（部分）
一枚 琉球王国 第二尚氏時代 19世紀

15世紀から19世紀にかけて繁栄した琉球王国では、海上交易を通じて、中国や日本、東南アジア諸国との文化を結び、独自の美が花開きました。中でも、型紙を用いて模様を染め出す紅型は、周辺各国の染色技術の影響を受けながら、首里王府の庇護のもと様々な技法が発展し、王国の人々を華やかに彩りました。ビビッドな色彩と多様なモチーフが響きあう表現は、沖縄を象徴する染物として今なお多くの人を魅了しています。

ここでは琉球王国の染織を代表する紅型について、当館の裂地コレクションを特集するとともに、そのデザインの源である型紙に焦点をあて、型紙を作り出した高度なテクニックと隠れた魅力をご紹介します。本来、型紙は布を染める際の「道具」ですが、そこには細やかな職人技が駆使された型紙ならではの「美」があります。多彩な国と地域の文化が融合して生まれた紅型裂と型紙の世界をご覧ください。

【主な出品作品】

・ 染分地 桜 波連山模様裂地	一枚	琉球王国	第二尚氏時代	19世紀
・ 葡萄色地瑞雲に蝶 桐散し模様裂地	一枚	琉球王国	第二尚氏時代	19世紀
・ 花色地瑞雲 霞 に鳳凰模様裂地	一枚	琉球王国	第二尚氏時代	19世紀
・ 雀 竹 瓢 箆模様染地型紙	一枚	琉球王国	第二尚氏時代	
咸豊8年（1858）				
・ 流水に鴨 葵 模様白地型紙	一枚	琉球王国	第二尚氏時代	19世紀

Story 4： 西洋への憧れが生んだ和ガラス



緑色葡萄唐草文碗 一口
江戸時代 18世紀



薩摩切子 紅色被碗 一口
江戸時代 19世紀中頃

日本において本格的にガラスのうつわが作られるようになったのは17世紀中頃のことです。当時の貿易窓口であった長崎において、吹き技法による実用的なガラス器の生産が始まったと考えられています。

そのきっかけは16世紀中頃に遡ります。ポルトガルやスペインの船が日本を訪れるようになったこの時期、キリスト教布教を目指す宣教師らは様々な珍しい

品を時の権力者に献上しました。その中に、ガラスでできた器物も含まれていたのです。実用性と豊かな装飾性を兼ね備えたヨーロッパのガラス器への憧れが、続く江戸時代にガラス器生産が本格化する原動力になったと推測されます。

ヨーロッパのガラス器への憧れが日本の美意識と結びついて生み出された「びいどろ」や「ぎやまん」という新たなガラスの美をお楽しみください。

【主な出品作品】

・ 藍色ちろり	一合	江戸時代	18世紀
・ 緑色葡萄唐草文碗	一口	江戸時代	18世紀
・ 切子 蓋付三段重	一具	江戸時代後期～明治時代初期	19世紀
・ 薩摩切子 ^{べにいろきせわん} 紅色被碗	一口	江戸時代	19世紀中頃
・ グラヴィール ^{ききょらいず} 帰去来図 ^{べっこう} ガラス入り 鼈甲櫛	一点	江戸時代	18世紀後半～19世紀前半

Story 5： 東西文化が結びついた江戸・明治の浮世絵



東海道五拾三次之内 沼津 黄昏圖 歌川広重
大判錦絵 江戸時代 天保4年（1833）頃



隅田川夜 小林清親 大判錦絵
明治14年（1881）

「錦絵 江戸の名産にして他邦に比類なし」（『江戸名所図会』）と書かれたように、大衆文化を背景に生まれた浮世絵版画は、流行を敏感にとらえ、江戸を代表する美となりました。プロデューサーとしての版元を中心に、絵師・彫師・摺師が一体となって作り上げた木版多色摺の錦絵は、幅広い階層の人々を惹きつけ、江戸の「今」を描いています。常に最新のモードを反映した浮世絵は、海外の情報も積極的に吸収し、西洋絵画の遠近法・明暗法も取り入れた新たな表現を生み出しました。

幕末には開港した横浜の西洋風俗を描いた「横浜浮世絵」が、明治時代初期には文明開化で発展した東京を描いた「開化絵」が制作され、力強い色彩で時代変化の様相を表しています。明治時代に西洋美術が本格的に伝わり、^{こばやしきよちか}小林清親（1847～1915）らによって伝統と結びついた新しい表現の近代版画が誕生しました。

ここでは、江戸の浮世絵、幕末維新期の横浜浮世絵・開化絵、明治前期の小林清親らの光線画を中心に、日本と西洋の文化が結びついた版画の美を展観します。

【主な出品作品】

- ・東海道五拾三次之内 沼津 ^{たそがれ} 黄昏圖 歌川広重 大判錦絵 江戸時代
天保4年（1833）頃
- ・横浜本町 景港崎街新廓 ^{よこはまほんちょうけいみよぎまにしんくわ} 五雲亭貞秀 ^{ごうんでいさだひで} 大判錦絵三枚続 江戸時代
万延元年（1860）
- ・東京名所上野公園内国勧業第二博覧会美術館 ^{ならびに} 井 噴水器之図 三代歌川広重
大判錦絵三枚続 明治14年（1881）
- ・隅田川夜 小林清親 大判錦絵 明治14年（1881）

Story 6： 異文化を独自の表現に昇華したガレ



花器「バッタ」 エミール・ガレ
一口 1878年頃



壺「風景」 エミール・ガレ
一口 1900年頃

アール・ヌーヴォー期を代表するフランスの芸術家エミール・ガレ（1846～1904）が創作に邁進した1864年頃から1904年の40年余りは、万国博覧会の時代にあたります。ガレは父の手伝いとして1867年のパリ万博と1871年のロンドン万博に参加しており、そこで目にした異国の美術品に大いに刺激を受けたとみられます。父から会社を引き継いだ後も、1878年、1889年、1900年のパリ万博という国際舞台を生かし、自社の造形を発表していきました。ガレのガラス作品からは、自国の伝統にエジプト・イスラム・中国・日本など多くの異国の美術のエッセンスを貪欲に取り入れながら、より洗練された美へと昇華していったことがうかがえます。

ここでは、ガレのガラス作品の中でも日本美術とかかわりの深い作品を中心にご紹介するとともに、昨年サントリー美術館のコレクションに加わった新収蔵品も初公開します。

【主な出品作品】

- | | | | |
|--------------------------|---------|----|--------------------------|
| ・ティー・テーブル「睡蓮に蜻蛉」 | エミール・ガレ | 一基 | 1890～1900年頃 |
| ・花器「バット」 | エミール・ガレ | 一口 | 1878年頃 |
| ・花器「 ^{かげろう} 蜻蛉」 | エミール・ガレ | 一口 | 1889～1900年
(菊地コレクション) |
| ・壺「風景」 | エミール・ガレ | 一口 | 1900年頃
(新収蔵品) |

【本展における展覧会関連プログラム】

◎学芸員による展示レクチャー

展示室内で担当学芸員が作品解説する動画を当館ウェブサイトで公開します。

◎エデュケーターによる鑑賞ガイド

[短時間で展覧会の見どころを紹介（スライド使用）／事前申込優先]

会期中、隔週土曜日

（12月26日、2021年1月9・23日、2月6・20日）

各日11時～、15時～（各回約15分）

参加無料（別途要入館料）

※当館ウェブサイトよりお申込みください。空席がある場合に限り、当日参加も可能です。

※いずれも変更する場合があります。詳細および最新情報はウェブサイトをご覧ください。

その他のプログラムもウェブサイトでご案内します。

リニューアル・オープン記念展 III
「美を結ぶ。美をひらく。」
美の交流が生んだ6つの物語」開催

- ▼会 期：2020年12月16日（水）～2021年2月28日（日）
※作品保護のため、会期中展示替を行います。
※会期は変更の場合があります。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。
- ▼主 催：サントリー美術館、朝日新聞社
- ▼協 賛：三井不動産、三井住友海上火災保険、サントリーホールディングス
- ▼会 場：サントリー美術館
東京都港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウン ガレリア3階
〈最寄り駅〉 都営地下鉄大江戸線六本木駅出口8より直結
東京メトロ日比谷線六本木駅より地下通路にて直結
東京メトロ千代田線乃木坂駅出口3より徒歩約3分

【基本情報】

- ▼開館時間：10時～18時
※金・土および1月10日（日）、2月10日（水）・22日（月）は20時まで開館
※いずれも入館は閉館の30分前まで
※開館時間は変更の場合があります。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。

- ▼休 館 日：火曜日（ただし2月23日は18時まで開館）、
12月28日（月）～1月1日（金・祝）

▼入 館 料：

- ・当 日 券：一般1,500円、大学・高校生1,000円、中学生以下無料
 - ・前 売：一般1,300円、大学・高校生800円
- ※サントリー美術館受付、サントリー美術館公式オンラインチケット、ローソンチケット、セブンチケットにて取扱
※前売券の販売は展覧会開幕前日まで
※サントリー美術館受付での販売は開館日のみ

▼割 引：

- ・あとり割：国立新美術館、森美術館の企画展チケット提示で100円割引
- ※割引適用は一種類まで（他の割引との併用不可）

▼呈茶席（お抹茶と季節のお菓子）

日 時：12月17日（木）・24日（木）、2021年1月7日（木）・
21日（木）、2月4日（木）・18日（木）

~~13時、14時30分、16時~~ 12時、13時、14時、15時に
お点前を実施

（この時間以外は入室不可、及びお茶とお菓子は召し上がれません）。

会 場：6階茶室「玄鳥庵」 定員：各回~~10名~~ 12名。1日~~30名~~ 48名
（当日先着順）

呈茶券：1,000円（別途要入館料）

※呈茶券は当日10時より3階受付にて販売（予約不可、お一人様2枚まで）

※変更・中止の場合があります。詳細および最新情報はウェブサイトをご覧ください。

※2020年11月30日に時間と定員を変更

▼一般お問い合わせ：03-3479-8600

▼美術館ウェブサイト：<http://suntory.jp/SMA/>

▽プレスからのお問い合わせ：〔学芸〕安河内、内田、林〔広報〕光田

TEL：03-3479-8604 FAX：03-3479-8644

メールでのお問い合わせ、及びプレス用画像ダウンロードのお申し込み：

2020年9月17日（木）から：https://www.suntory.co.jp/sma/info_press/

以 上